

教育

edu@asahi.com

日曜～火曜掲載

算数も英語で「イマージョン教育」

愛知県豊橋市の市立八町小学校が、各教科を英語で教える「イマージョン教育」に取り組んでいる。狙いは、世界で活躍できるグローバル人材の育成。市教育委員会によると、算数などの主要教科に導入した公立小学校は全国初という。

全国初公立小学校で導入

「Let me try(私にやらせて)！」
小数の割り算やかけ算を学ぶ4年生の算数。答えを聞かれた子どもたちが、次々と手を挙げた。
かけるは「times」、割るは「divided by」、小数点は「point」。英語が話せる日本人教員と、外国籍の教員「NET(Native English Teach er)」の2人で授業を進めるが、子どもが首をかしげる場面では、日本語で説明する。この日は文章題にある「aquarium(水族館)」や「weight(重さ)」の2人で授業を進めるが、子どもが首をかしげる場面では、日本語で説明する。この日は文章題にある「aquarium(水族館)」や「weight(重さ)」



英語を使って算数を学ぶ「イマージョン教育コース」の児童ら
＝いずれも11月13日、愛知県豊橋市立八町小学校

日本語で学ぶクラスに入る。イマージョン教育コースで学ぶ2年生の中西風君(8)は「ちょっとずつ英語がわかってきた。勉強は楽しい」。5年生の吉武更紗さん(10)は「学校で英語が話せるのはうれしい。将来は海外で仕事がしたい」と笑顔

日本語の成長にもつながる

イマージョン教育を実践する学校は全国でもまだ少数だが、私立校を中心にじわりと増えている。
1992年に全国で初めて取り入れたのが、私立加藤学園暁秀初等学校(静岡県沼津市)だ。全校児童505人のうち、半分以上がイマージョンクラスを選択。修了した8割以上が系列中学のバイリンガルコースを希望するという。
佐藤誠一校長代行は「大事な

イマージョン教育
他言語を使って、語学以外の教科を学ぶ教育プログラム。イマージョン(immersion)は英語で「浸す」という意味で、文字通り、習得を目指す言語に浸った環境で学習する。1960年代にカナダで始まり、他国に広がった。

外でコンサート新しい形できた

いま No.1724
子どもたちは
三大大行事やりたい

3

秋晴れの空の下、中庭の仮設ステージに木田波菜さん(14)が立ち、マイクを握った。「コロナウイルスを吹き飛ばすくらいの元気で笑顔で楽しんでください」
福岡県新宮町立新宮東中学校。三大大行事のひとつ、合唱コンクールに代わる「ピック

ルーフコンサート」だ。体育会前の10月13日に開かれた。中庭のほかペランダも広く使い、約400人の全校生徒が初めて集合。ダンスや漫才、歌に盛んな拍手を送った。生徒会役員の3年木田さん(14)と井上心春さん(14)、落石美月さん(15)の3人が司会役。見事なダンスのあとは「ファンになっちゃった人、拍手！」と盛り上げた。
「今年学校全体で笑いあえる場面がこれまでなかった。やっと、です」と落石さん。木田さんも「自分が提案したことが形になった」。



木田さんは、合唱コンクールを成功させたことで生徒会役員になった。だがコロナで体育館での合唱は難しくなり、有志のダンスや歌を録画して

校内放送する話が出ていた。9月初め、木田さんを見て「元気がないな」と感じた折居邦成校長が、校長室に呼んで話を聞いた。「外でやれば密にならないと思うんだけど、そういうのダメなんです」と木田さんは思い切った。校長は「いいアイデアだね」。中庭でのコンサートが動き出した。
昼休みや放課後、生徒会役員が集まり、企画を練った。盛り上げようと校内の階段も飾った。「久々に働いた」とピックルーフコンサートで司会をする(前列右から)木田波菜さん、井上心春さん、落石美月さん
11月13日、福岡県新宮町

木田さん。「そりゃあ、いつもみたいに体育館で合唱コンクールをしたかったですよ。でも、これも新しい形で、よかったと思う」
砂像コンテストはできなかったが、地域の協力を得て竹灯籠イベントを実施した。コロナ禍でも、感染が落ち着いてきた秋のうちに、形を変えた「三大大行事」を生徒主体でやり直した。井上さんは「時間がなくても、計画的に準備して粘り強く頑張ったら、行事は大成した。受験も時間は短いけど、粘り強く頑張る」と話した。(渡辺純子)

病気のこどもの支援 オンラインで考える

20日に全国病弱教育研究会

起原は諸説あるけど、1940年代の米国で、木の板に鉄の車輪をつけて滑った遊びが始まりとされるよ。70年代に日本でもブームになったんだ。
3870

全国病弱教育研究会が20日午前9時45分～午後4時30分、オンラインで全国大会を開く。テーマは「病気のこどもの発信を受けとめ、支えよう つながりの質を高めるために」。医療や教育など異なる職種の人たちの連携▽治療中の高校生への教育保障▽自宅療養中も含めた小児

がんの子どもへの支援、などのテーマで関係者が発表や意見交換をする。院内学級などで子どもたちが作った作品も写真で紹介する。参加費は1500円、当事者、家族、学生は500円。申し込みと問い合わせはホームページ(<http://www.maroon.dti.ne.jp/zenbyouken/>)から。